

臨・933

教育心理劇の技法

One person psychodramaとMarketingの技法

松村 康平

お茶の水女子大学 家政学部

[立場] 関係弁証法(関係理論・役割技法)

Freud: 治療場面における治療者・患者、2者間の関係性とづき、患者に即した2者間の技法が主として展開される。それは、自由連想法といわれ、患者の過去体験が重視されている。「以前さ・ここで」の原則を立つ。

Moreno: 治療場面における監督および補助自我・演者・観客たちの、対人関係の「内的認識」にとづき、患者に即した2者間の技法が主として展開される。それは、Role reversal, Doubling, Mirroringなどといわれ、患者の現在(および過去)体験が重視されている。「今は・ここで」の原則を立つ。

私たちの場合: 教育・治療場面における監督および補助自我・演者・観客たち、対人関係の「内・外的認識」にとづき、教育・治療関係に即した3者間の技法が主として展開される。それは、Tripling, 集束化の技法、拡散化の技法その他であり、また、併用される技法として、小集団運営の技法であるBuzz法や、相談技法である3者面談法などがある。「今・ここで・新しく」の原則を立っている。(参考文献: 日本心理学会第29回大会研究発表論文集、「心理劇-対人関係の変革-」、「児童臨床学-児童学論文集-」)

【技法】 場面状況AからBへの展開を、場面設定および対物・対人・対自己関係の操作によつてもたらし、所期の教育目的を達成する心理劇的方法。(例: 道徳教育の技法については、『道徳道徳教育』No.48~50・明治図書、参照。)

心理劇の役割技法: 監督・補助自我・演者・観客および舞台に関する諸技法; 役割操作(役割投入ほか)・役割交代・役割転換などの技法

心理劇の関係技法: 対自関係技法(独立の技法ほか)・対物関係技法(物理的連絡強化の技法ほか)・対人関係技法(Doubling, Triplingほか)。

心理劇展開の技法(一般): 軽減法・加重法・重複法・唯一法・初発法・中断法・再現法;

兩極法・鏡映法ほか。

心理劇展開の技法(特殊): 舞台へ誘導する技法; 演者の発言をとりえて他の演者(観客)とつなげて強める技法; おちこぼれをなくす技法(CC Lean upの技法); 展開を阻む発言に対する技法; 観客の発言とりあがげる技法; 観客の期待を高揚させる技法; 全員の発言をさそう技法; 戏劇の終結をもたらす技法ほか。

劇体験明確化の技法: 現象的自己の把握法; 自己関係の変化体験把握法; 情況関係認知法; 空想関係体験の把握法(空想1者関係体験法; 空想2者<多者>関係体験法ほか); 関係参加体験法; 関係変化体験法(参加増強法・漸減法などによる); 関係力動体験法(関係自由運動法などによる) (参考文献: 「臨床心理学」朝倉書店。)

劇場面状況展開の技法(小集団指導の技法): 集束化の技法; 拡散化の技法; 集束・拡散集束化の技法ほか。

【教育心理劇のDemonstration】

Chicago Teachers CollegeのPro. Rose Brandzelが、1965年9月から5月かけて来日。心理劇研修会が、東京(お茶の水女子大学児童臨床研究室; 日本心理劇協会主催)と京都(京都女子大学; 深山富男氏ほか)でもたれど。(「日本交換心理劇研究会」はこれが2回目。第1回目は、1961年8月にも五次だ。そのときは、「Nonverbal Psychodrama」と主とし、Doublingの技法をつかせ、Leon Fine 夫妻によって導入された。) 東京会場では、日本における教育心理劇のDemonstrationを中心、技法の紹介がおこなわれた。そのときの全過程1部と、技法1端を示す。
«One person psychodrama»

-導入部-

監督(D.松村)以外、全員が演者になる体験をする(全員参加の心理劇)。B(Pro. Brandzel)けN(中村)ときの補助自我; 副監督の通訳役(もと)の役割ひとり、2人ひと組で參

加している。次いで、監督が演者にかかり、ほかは観客となることによって、"ひとりでするサイコドラマ"が展開していく。観客であり問題提出者(患者的・演者の観客)であるBの体験が深まるよう、監督は次のように役割を、S(清水里子)とN(中村悦子)に付与する。D「SさんとNさん! Bさんたゞしろれついて、横(両極)にいていいのですが、doubleを役として。これからする私の動きに即して、monologueをしていくのです。Bさんは説明するではあります。理解が深まるように、monologueをすることによってdoubleを役とします。」
く觀客でありながら、演者としての参加が可能であるようとする技法。ひとりでするサイコドラマを3者関係的状況でとらえて、ひとりサイコドラマへ参加。理解仕方は、各自にまかせる。SはDによるコミュニケーションをじゅうぶんには期待できなり事懶れおひいて、心理劇の体験を深める技法。>

一展開部一

D「これから始めます。一ひとりで劇をします。」
場面I: M(D)は、演者となる。舞台の上段且れかぶり、上段の方へ向って言葉はじめる。
M「先生! あしたから新しいクラスで教えなければ、いけないのです。」間をおいてから、(Dの役きとり) Nは、「Bさんたゞdoubleをするつもりで行く、たゞ、Bさんときえよる独立り言さいつてください」という。聞をおいて、演者なんかえり、M「先生! 学校でのうつ習ってきたのですが、はじめてあした、教室で教えるくてはいけないんです。困っています。」間をおく。M「ええ。そなうです。なんか不安な気がします。」(間) M「ええ、あした……。学校は8時半から始まるといふのですから、やたくしけ、8時近くにようと思ひます。…先生も見てくださりますか?」(間) M「それでは、お願ひします。では、あいたきよう…あいたきよう…きよう…あいた…あいた早く。きよう…きようはもう帰ります」と思ひます。それで、家で考えて、あした…先生は本当に8時頃きてくださいますか? 本當ですか。それなら安心しました。あした、早くきますから、お願ひします。」Mは、舞台をあります。(ひとりでするサイコドラマでは、空間・役割・時間の分化をもたらす技法の活用が望まれる。舞台の段・活用による領域の分化・間をとる・それによる役割

の分化、時刻操作による時間の分化などが有効である。>

場面II: Mは、足早やん舞台の上段までかかる。M「おはようございます。あ、だれもいなひます。もう8時を过了。あり先生、まだ来ていないのかな。」(間) M「15分遅きました。半からは、教室に行かなければならぬ。ありときは、あん存れ約束になつたれ。」Mは、舞台の上さいきさするハツとして、立ちどまり、左手をみると。M「どうぞ。」(間) M「それしきき方りよくそれりようは先生ではない。観客の予測をこえた場面の設定がなされる。」M「どこクラスの生徒だ! もつているのは何? …」(以下、略)。場面は、生徒の案内で教室に移る。次へされ、生徒登場。おゆつて、教官室。先生へ会う。そこで、役割を転換。あり先生の役をとり、日本における心理劇の話。おゆつて、「じゃ、君は、次、英語の時間です。まあ、しっかりやってください。」言いおえて舞台をおりる。舞台にMはいながく、はじめにMはとつた役割を舞台の上に残している。観客は観客としているながらその役ととり、しばし、沈思。こうとき、監督が、場面転換・役割交代の指示をすれば、演者として容易に参加し得る状況にある観客がいて、劇は更に展開する。

◆ Marketing の技法 ◆

①集団・凝集度が高く、異質が固定してきて集団活動の力動性が失われていく場合などは、たとえば、市場がひらくかれているときのよう、各所に異質を分化。異在させることより集団活動の発展ともたらす技法。②集団成長の連結性が弱薄なとき、たとえば、同じ市場にあり異なる役割をもつ店をひらくことより、個別尊重され連結性もあがめられる技法。

◆ 教育心理劇活動の成果 ◆

「これ、Prof. Brandzelさんが日本を去る前にあつておられた思想の1端を、かかげさせてもらう。It is significant I think that the people who have been most friendly and helpful are those associated with Psychodrama. ---- I am most impressed with the type of people who are working with you in Psychodrama - their ability, their commitment and their warmth.